

ヤマモモ

もものようなかじつをつけることから『やまのもも』といういみの「ヤマモモ」となりました。

しこくきゅうしゅう、おきなわにぶんぷするじょうりよくこうようじゅのこうぼくで、20mいじょうになる。

あまずっぱいかじつはせいしょくのほか、ジャムやかじつしゅなどにりようされる。



ヤマモモ

和名

山桃

18

別名

山桜桃

分類

科(APG分類)

ヤマモモ科

属

ヤマモモ属

科(旧分類)

属

科(旧分類)

属

名前の由来

・山に生えて、桃のような果実をつけることから『山の桃』という意味の「ヤマモモ」となっただけで、バラ科の「モモ」とはまったく関係のない植物です。

・中国では「楊梅皮(ようばいひ)」とよばれ、果実が水楊子という植物の果実に似ていて味が梅に似ていたことからつけられた。



樹木の特徴

・ヤマモモは関東南部、福井県以西、四国九州、沖縄に分布する常緑広葉樹の高木で、20m以上になる。

・葉は密に互生し、多くは枝先に束生する。葉身は革質、つやのない深緑で倒披針形か長楕円形。成木では全縁だが、若葉では不規則な鋸歯が出ることが多い。

・雌雄異株で、3~4月に葉のわきに穂状の花序をつける。花被はない。雄花序には多数の雄花が密につくが、雌花序の雌花はややまばらにつく。

・雌株につく果実は径1.5~2cmのはほぼ球形で、6月頃に紅色から暗赤色に熟し食用となる。表面に粒状突起を密生する。

・根粒に窒素固定菌を共生させており、比較的栄養の乏しい土壌でも生育できる。



用途・その他

・甘酸っぱい果実は生食のほか、ジャムや果実酒などに利用される。

・街路樹、公園樹としてもよく植栽される。

・多数のムクドリが食べる鳥散布。

・樹皮は塩水に強いので漁網を染める染料としても使われる。

・ヤマモモにはクエン酸が含まれており、疲労回復効果がある。また、ポリフェノールの抗酸化作用は体内の活性酸素を除去するので老化防止に効果があるとされる。